

2-3 社会情勢

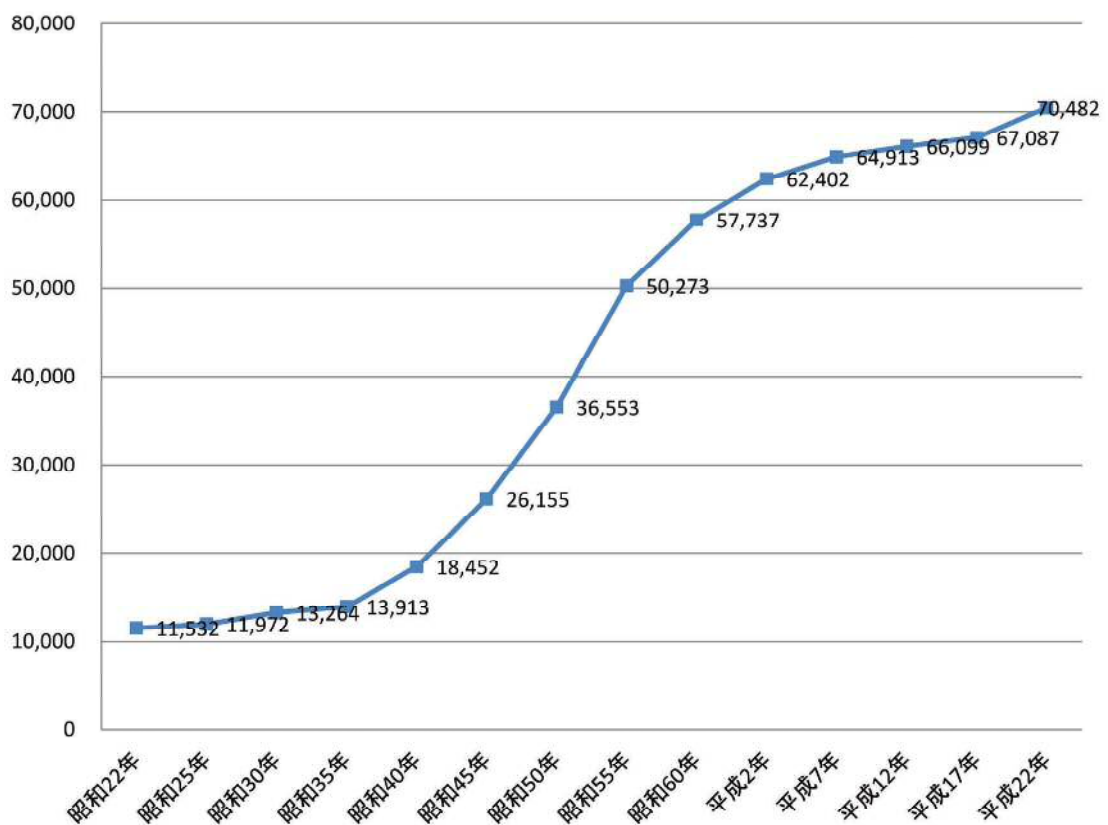
(1) 人口

本市は、福岡都市圏の住宅都市として、昭和 40 年代から人口増加の一途を辿ってきました。福岡都市圏からの流入が主な要因です。

昭和 40 年代当時の宅地開発に伴う人口の急増期と比較すると、昭和 60 年以降の社会増加数は落ち着きを見せ、平成に入ってからには微増傾向です。平成 22（2020）年の国勢調査にみる人口は 70,482 人、世帯数 27,850 戸となっています。

平成 23（2011）年 3 月に策定した第 5 次総合計画では、平成 32（2020）年の将来目標人口 72,000 人を掲げ、今後とも人口増を目指しています。

一方、65 歳以上の割合は年々増加しています。平成 27（2015）年 11 月 1 日現在（住民基本台帳）の高齢化率は 25.7%です。また、15 歳未満の割合が年々低下し、少子高齢化が進行しています。



◆人口の推移（国勢調査）

(3) 宅地開発

本市は、福岡都市圏に位置し、多くの住宅開発が行われてきたところです。住宅開発の波は、1950年代、国分や通古賀の県営住宅、駅に比較的近い平坦地の開発から始まり、その後四王寺山の麓をはじめ丘陵地へ拡大してきました。

史跡指定地周辺における主な住宅団地としては、国分ヶ丘、観世、国分台、水城台、白川、イトーピア、大原、三条台、浦ノ城等が挙げられます。観世団地は、団地の西半分が史跡指定地内に位置しています。全体的に少子高齢化が進行する中で、古い宅地開発地では世代更新が図られず、第一世代だけが残り高い高齢化率を示しているところも出てきています。

(4) 産業

本市の就業構造は、第3次産業への特化が顕著です。

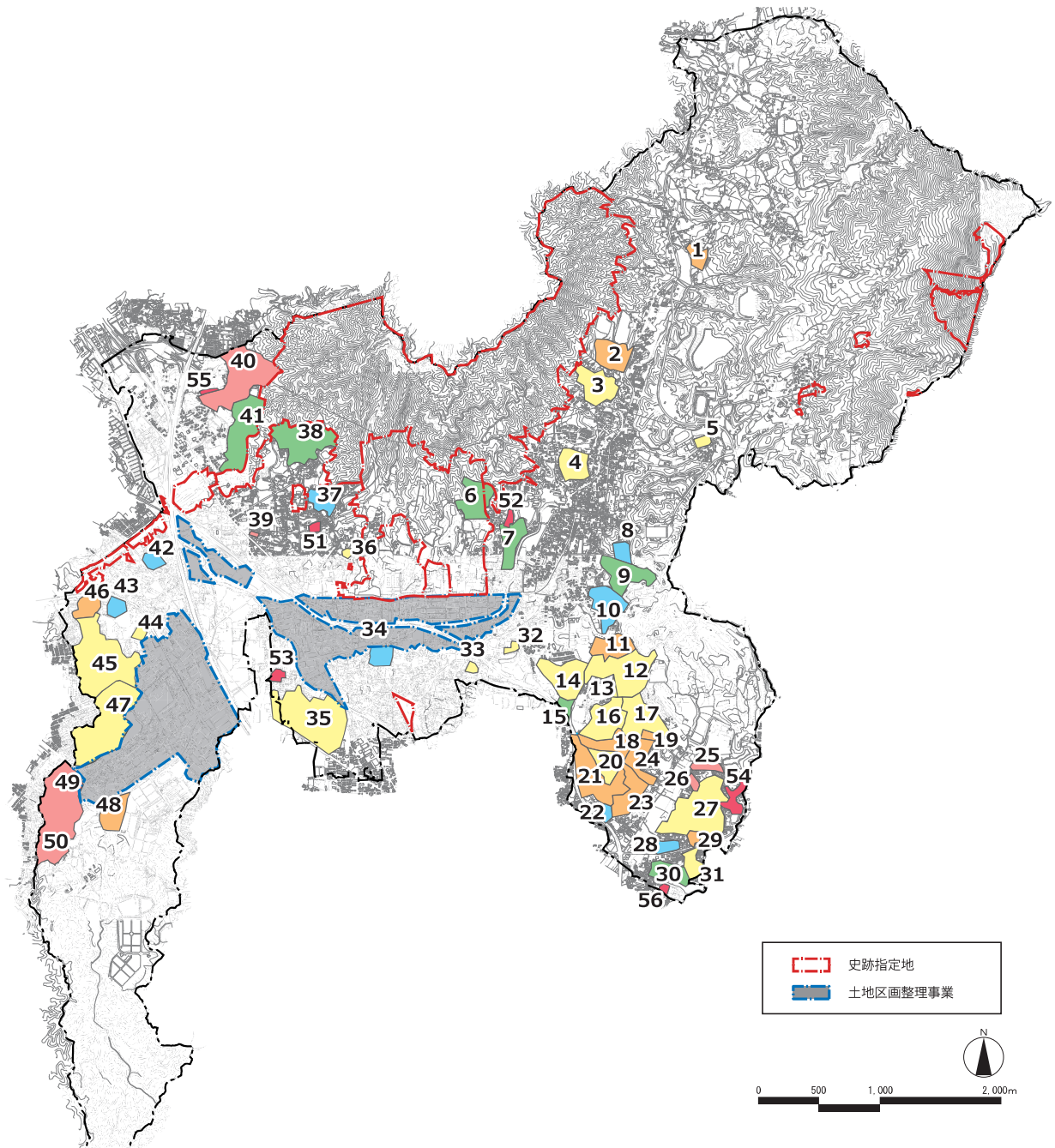
平成22年の国勢調査にみる産業別就業者数は、総数30,286人に対して、第3次産業は23,618人で、78.0%を占めています。対して、第2次産業は4,838人の16.0%、第1次産業（主に農林業）は204人で、0.7%に過ぎません。全就業者に対する第1次産業の占める割合は極めて低く、農村的色彩はかなり弱まっています。

(5) 観光

本市の観光客数は、年間約821万人（平成26（2014）年度）です。東アジアを中心に海外から訪れる観光客も増えています。

本市を訪れる観光客の動きとしては、従来、太宰府天満宮一極集中型でした。しかし、近年では、水城跡や大宰府跡にも大型の観光バス等が寄りつくことが増えたこと、レンタサイクルを利用する観光客が増えたこと等もあり、史跡指定地を訪れる観光客も増えています。近年市内に観光バスが著しく増えていることで、平日でも大宰府跡から太宰府天満宮へ向かう主要地方道筑紫野太宰府線（通称：政庁通り／P22参照）が渋滞しています。

外国からの観光客が増えたことも含め、今後は観光にも対応する史跡整備も求められています。



時期	団地名	番号	時期	団地名	番号	時期	団地名	番号
'67年以前	湯ノ谷北	8	'71年	梅香苑1期	20	'76年	泉ヶ丘	23
'67年以前	湯ノ谷西	10	'71年	長浦台	47	'77年	星ヶ丘3期	18
'67年以前	梅ヶ丘	22	'71年	三条台	3	'77年	万葉台	1
'67年以前	光ヶ丘	28	'72年	東ヶ丘	12	'78年	星ヶ丘4期	19
'67年以前	榎寺住宅	34	'72年	星ヶ丘1期	16	'79年	青葉台第2期	46
'67年以前	国分ヶ丘	37	'72年	青葉台第1期	45	'79年	高雄ハイツ	29
'67年以前	国鉄住宅	42	'72年	スコーレ西日本	13	'80年	泰栄開発	39
'67年以前	篠振	43	'72年	高雄台	27	'82年	イトーピア	40
'62年	白川	7	'73年	浦ノ城	4	'82年	共同施工区画整理	50
'65年	湯ノ谷南	9	'74年	スコーレ西日本	36	'82年	(竹下住宅)	25
'68年	親世	6	'74年	星ヶ丘2期	17	'88年	共同施工区画整理	49
'68年	(高松不動産)	15	'74年	(徳永開発)	33	'93年	(竹下住宅)	26
'68年	国税局	30	'74年	スコーレ吉松	44	'95年	ロフティ都府楼ガーデンシティ	51
'68年	国分台	38	'74年	(日綿実業)	32	'97年	(九州八重洲興業)	52
'69年	水城台	41	'75年	大宰府ハイツ	11	'04年	アブローズ	53
'70年	ニュー菅谷	5	'75年	大原	2	'07年	(西日本トラス)	54
'70年	五条	14	'75年	梅香苑2期	21	'13年	(マキテック)	55
'70年	日本勤労者住宅	31	'76年	大佐野	48	'15年	Fガーデンハイツ太宰府	56
'70年	都府楼	35	'76年	長崎ヤクルトハウジング	24			

◆大規模宅地開発の動向